



■ 研修会日程 ■ *開催時間 10:00~17:00 (受付 9:30~)*

研修番号	テーマ	会場	開催県	開催日	講師名	定員
1	ユニバーサル・ミュージアム	九州国立博物館	福岡県	7月25日(月)	広瀬 浩二郎 (国立民族学博物館)	30名
		隼人歴史民俗資料館	鹿児島県	11月14日(月)		
2	博物館・資料館 de 音楽療法	都城歴史資料館	宮崎県	8月8日(月)	井上 幸一 (福岡女子短期大学)	20名
		本部町立博物館	沖縄県	8月22日(月)		
3	美術館 de 園芸療法	熊本市現代美術館	熊本県	8月11日(木)	岩崎 寛 (千葉大学)	30名
		長崎県美術館	長崎県	8月29日(月)		
4	博物館 美術館 de やさしい日本語	佐賀県立博物館・ 佐賀県立美術館	佐賀県	9月5日(月)	村田 陽次 (東京都生活文化スポーツ局) 高尾 戸美 (多摩六都科学館)	30名
5	博物館 de 回想法	駄菓子屋の夢博物館	大分県	10月3日(月)	市橋 芳則 (北名古屋市歴史民俗資料館)	30名

【留意事項】

- 来場当日は感染防止対策(座席間隔の確保、換気、消毒、検温)を行います。
- 来場の際は、必ずマスク着用、手指消毒、検温、健康観察カードの提出のご協力をお願いします。
- 感染症拡大の状況により、研修会が中止となる可能性もあります。

【人権の保護及び法令等の遵守への対応】

本プログラムは、九州産業大学「ヒトを対象とした研究に関する倫理委員会」の承認を得た上、博物館浴の効果実証研究のため、参加者の血圧・脈拍データに加え唾液アミラーゼなどの採取を行います。具体的には、参加者に対してプログラムの内容について、口頭・文書で説明し、同意をいただいた後に実施します。なお、採取したデータについては、個人情報特定されないよう匿名化した上で、専用の記録媒体に保存し、実施責任者以外が見ることができないようにします。

■ 主催：「2042年問題」解決に向けた社会資源を活用した「健康寿命」増進プログラム開発とリンクワーカー人材育成事業実行委員会
(九州産業大学美術館<代表>、九州大学総合研究博物館、福岡市博物館、福岡市美術館、海の中道海洋生態科学館、田川市石炭・歴史博物館、直方谷尾美術館)

申込方法	受講希望の方は、① 件名:学芸員研修会(希望する研修会名と日程:(例)ユニバーサル・ミュージアム、7/25) ② 内容:氏名(ふりがな)、所属、職名、この研修会に期待することを書いて、E-mail:museum03@ip.kyusan-u.ac.jpへ、お申込みください。なお、応募多数の場合は抽選とします。受講決定可否はメールにて通知します。
参加対象	博物館関係者、医療・福祉従事者、大学教員等
問合せ先	九州産業大学美術館事務局 E-mail:museum03@ip.kyusan-u.ac.jp
事業責任者	緒方 泉(九州産業大学地域共創学部教授)

受講料 >>> 無料



九州産業大学美術館
Museum of
Kyushu Sangyo University

〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台2-3-1
tel 092-673-5160 / fax 092-673-5757
ksumuseum@ip.kyusan-u.ac.jp
https://www.kyusan-u.ac.jp/ksumuseum/



博物館を活用した「健康寿命」増進プログラム 開発のための学芸員研修会

「博物館健康ステーションを創る」



2015年11月、ユネスコ総会で採択された「博物館とコレクションの保存活用、その多様性と社会における役割に関する勧告」の中で、「ミュージアムは社会全体に語りかけるゆえに社会的な繋がりや団結を築き、市民意識の形成また集団的アイデンティティを考える上で、重要な役割を持つ重要な公共空間である。ミュージアムは、恵まれない立場のグループを含め、すべてに開かれた、あらゆる人々の身体的・文化的アクセスを保障する場であるべきである」と提言している。

超高齢社会へひた走る日本は、団塊世代が75歳以上になる「2025年問題」に続き、団塊ジュニア世代が全て高齢者になる「2042年問題」が浮上し、社会保障費の増大、勤労世代の減少が大きな課題である。

そこで、本事業では、今後社会的処方場となることが期待される、博物館を活用した「健康寿命」増進プログラム開発の企画立案・実施運営の方法を学ぶ研修会を開催する。

カナダでは、「処方箋に博物館と書く」という新たな医療保健制度が始まっている。「知的刺激/学び/楽しみ」の場である博物館が、「リラクゼーション効果の場=博物館浴の場」という新たな価値創造が可能になる「健康増進プログラム」を開発することで、地域の高齢者医療にどのように貢献できるかを、参加する学芸員が考える機会を提供したい。

*博物館浴：博物館見学を通して、博物館の持つ癒し効果の人々の健康増進・疾病予防に活用する活動

趣 旨

研修会の特徴

- 現職学芸員のニーズに沿った研修内容です
- 講師陣が多岐で、博物館学の今を知ることができます
- 研修会は自由選択、1講座でも受講できます
- 研修会は九州・沖縄8県で開催します
- グループワークが多いので、館種を越えた人的ネットワークができます

受講料 >>> 無料

■ 主催：「2042年問題」解決に向けた社会資源を活用した「健康寿命」増進プログラム開発とリンクワーカー人材育成事業実行委員会
(九州産業大学美術館<代表>、九州大学総合研究博物館、福岡市博物館、福岡市美術館、海の中道海洋生態科学館、田川市石炭・歴史博物館、直方谷尾美術館)



講師から一言

前半は、昨年9月～11月に開催された国立民族学博物館の特別展「ユニバーサル・ミュージアム：さわる！“触”の大博覧会」の概要を紹介しつつ、「さわる展示」の意義と可能性について考えます。後半は、ワークショップ形式で実際に資料にさわりながら、「ユニバーサル＝普遍的」な博物館のあり方を参加者とともに楽しく議論します。

開催日程/開催会場/応募締切

【7月25日(月)】10:00～17:00(受付)9:30～九州国立博物館(福岡県太宰府市石坂4-7-2) 応募締切:7月1日(金)

【11月14日(月)】10:00～17:00(受付)9:30～隼人歴史民俗資料館(鹿児島県霧島市隼人町2496) 応募締切:10月21日(金)

開催内容

- 午前
 - 09:30 受付開始
 - 10:00 開会挨拶、講師紹介、参加者自己紹介
 - 10:20 講義「『ユニバーサル・ミュージアム：さわる！“触”の大博覧会』から考える『さわる展示』の意義と可能性」
 - 12:00 昼食
- 午後
 - 12:50 演習①「無視覚流鑑賞法の体験(1回目)」
 - 13:20 グループワーク①「無視覚流鑑賞法の記録記入・共有」
 - 13:45 休憩
 - 13:55 演習②「無視覚流鑑賞法の体験(2回目)」
 - 14:25 グループワーク②「無視覚流鑑賞法の記録記入・共有」
 - 14:50 休憩
 - 15:00 グループワーク③「グループで語り合ったことを全体に発表」
 - 15:25 演習③「見ながらさわって、比較を語り合おう」
 - 15:50 休憩
 - 16:00 演習④「広瀬先生に何でも相談してみよう」
 - 16:30 ふりかえり
 - 17:00 終了、解散

定員30名



「ユニバーサル・ミュージアム」

講師：広瀬 浩二郎 (Kojiro HIROSE)
国立民族学博物館准教授/専門分野：日本宗教史・文化人類学

講師から一言

音楽療法の、フレイル予防やストレスケアを含む心身機能の維持・改善などを目的として、高齢者をはじめ幅広い対象に実践されています。展示資料によるイメージを基に、身近にあるモノを活用した音探しを行い、その響きを共有する「博物館浴」としてのミュージックングを体験していただきたいと考えています。

開催日程/開催会場/応募締切

【8月8日(月)】10:00～17:00(受付)9:30～都城歴史資料館(宮崎県都城都市都島町803) 応募締切:7月15日(金)

【8月22日(月)】10:00～17:00(受付)9:30～本部町立博物館(沖縄県国頭郡本部町大浜874-1) 応募締切:7月29日(金)



「博物館・資料館 de 音楽療法」

講師：井上 幸一 (Koichi INOUE)
福岡女子短期大学音楽科准教授/専門分野：音楽学/音楽療法

開催内容：(会場によって、時間・進め方が異なる場合があります)

- 午前
 - 09:30 受付開始
 - 10:00 開会挨拶、講師紹介、参加者自己紹介
 - 10:20 講義前の心理・生理測定
 - 10:40 講義「《健康と芸術に関わる先行研究》《音楽療法とミュージックング》《身近なモノの活用》」
 - 11:40 昼食
- 午後
 - 12:30 セッション1(グループごとの活動)流れの確認-作品の鑑賞
 - 12:50 鑑賞後の心理・生理測定
 - 13:50 ①展示資料のイメージをどう表現するのか話し合う
②使用するモノ・楽器、構成、活動の場所(空間、配置)を決める
③試演と準備(変更などがあれば行)
 - 13:50 ④発表する各グループ3分以内-他のグループの活動を聴取
 - 14:10 活動後の心理・生理測定
 - 14:30 休憩
 - 14:40 ギャラリートーク
 - 15:00 ギャラリートーク後の心理・生理測定
 - 15:20 休憩
 - 15:30 セッション2(ギャラリートーク後の活動)流れの確認-作品の鑑賞
 - ①展示資料のイメージをどう表現するのか話し合う
②使用するモノ・楽器、構成、活動の場所(空間、配置)を決める
③試演と準備(変更などがあれば行)
 - 16:10 ④発表する各グループ3分以内-他のグループの活動を聴取
 - 16:25 活動後の心理・生理測定
 - 16:45 ふりかえり
 - 17:00 終了、解散

定員20名

講師から一言

園芸療法とは、植物の栽培といった一般的な園芸活動だけでなく、植物を用いたクラフトや庭園の散歩など、身近な植物を五感で感じることで、ストレス緩和や、落ち込み・不安などの感情を改善するものです。本講座では、園芸療法の事例を紹介しながら、その効果や身近な実践方法についてお話しします。

開催日程/開催会場/応募締切

【8月11日(木)】10:00～17:00(受付)9:30～熊本市現代美術館(熊本市中央区上通町2-3) 応募締切:7月15日(金)

【8月29日(月)】10:00～17:00(受付)9:30～長崎県美術館(長崎市出島町2-1) 応募締切:8月5日(金)

開催内容：(会場によって、時間・進め方が異なる場合があります)

- 午前
 - 09:30 受付開始
 - 10:00 開会挨拶、講師紹介、参加者自己紹介
 - 10:20 講義「植物のセラピー-効果を地域ケアに活かす」
 - 11:50 美術館周辺の散策前の心理・生理測定
 - 12:20 昼食
- 午後
 - 13:10 会場から美術館周辺に移動
 - 13:20 園芸療法プログラム1「岩崎先生の解説を聞きながら散策しよう」
 - 14:20 美術館周辺から会場へ移動
 - 14:30 美術館周辺の散策後の心理・生理測定
 - 14:50 休憩
 - 15:05 園芸療法プログラム2「色々な豆を使ったタオルハンガーづくり」
 - 15:50 休憩
 - 16:00 グループワーク「園芸療法を活用した博物館プログラムを考えよう」
 - 16:30 グループ発表
 - 16:45 ふりかえり
 - 17:00 終了、解散

定員30名

「美術館 de 園芸療法」

講師：岩崎 寛 (Yutaka IWASAKI)
千葉大学大学院園芸学研究院准教授/専門分野：環境健康学



「博物館健康ステーションを創る」

講師(村田 陽次)から一言

近年注目を集めている「やさしい日本語」は、外国人にもわかるように配慮して簡単にした日本語のことですが、実は高齢者や子供、障害者等とのコミュニケーションにも有効な考え方です。私たちは「やさしい日本語」を使って、美術館などの文化施設を全ての人々に対して開かれた場にしていきたいと考えています。

講師(高尾 戸美)から一言

ミュージアムにとって、やさしい日本語を導入する意味とはどのようなことでしょうか?また館内外において、それらはどう受け止められ、どのように展開すれば良いのでしょうか?当館の事例から皆さんの現場での取り入れ方をイメージし、在住外国人の方にやさしいミュージアムの第一歩を踏み出したい場面にできればと思います。

開催日程/開催会場/応募締切

【9月5日(月)】10:00～17:00(受付)9:30～佐賀県立博物館・佐賀県立美術館(佐賀市内1-15-23) 応募締切:8月12日(金)



「博物館 de やさしい日本語」

講師：村田 陽次 (Yoji MURATA)
東京都生活文化スポーツ局民生生活部地域活動推進課 課長代理/担当分野：共助・共生社会づくり



講師：高尾 戸美 (Hiromi TAKAO)
多摩六都科学館 特別研究員/多文化共生コーディネーター/専門分野：博物館学

開催内容

- 午前
 - 09:30 受付開始
 - 10:00 開会挨拶、講師紹介、参加者自己紹介
 - 10:20 講義「多文化共生とやさしい日本語」
 - 講師：村田 陽次 (東京都生活文化スポーツ局民生生活部地域活動推進課)
 - 11:10 休憩
 - 11:20 質疑応答
 - 11:40 昼食
- 午後
 - 12:30 事例紹介「多摩六都科学館の取り組み」
 - 講師：高尾 戸美 (多摩六都科学館)
 - 13:20 質疑応答
 - 13:40 休憩
 - 13:50 佐賀県立博物館・佐賀県立美術館展示室見学の説明
 - 14:10 佐賀県立博物館・佐賀県立美術館展示室見学
 - 14:50 休憩
 - 15:00 ワークショップ
 - 「博物館のワークシートをやさしい日本語で作成してみよう」
 - ファシリテーター：緒方 泉(九州産業大学地域共創学部)
 - 15:40 発表、講師による講評
 - 16:10 休憩
 - 16:20 質疑応答
 - 16:40 ふりかえり
 - 17:00 終了、解散

定員30名



講師から一言

回想法は、高齢者を元気にし、世代間交流を促すプロジェクトとして活用されています。博物館と高齢者ケア・認知症予防・健康推進などを推進する福祉関係の部局とが連携を図った「思い出ふれあい(回想法)事業」を2002年から実践しています。私たちは、これを「博福連携」と名付け、地域活動の軸の一つとしています。

開催日程/開催会場/応募締切

【10月3日(月)】10:00～17:00(受付)9:30～駄菓子屋の夢博物館(大分県豊後高田市新町1007-5) 応募締切:9月9日(金)

開催内容：(会場によって、時間・進め方が異なる場合があります)

- 午前
 - 09:30 受付開始
 - 10:00 開会挨拶、講師紹介、参加者自己紹介
 - 10:20 講義前の心理・生理測定
 - 10:40 休憩
 - 10:45 講義「回想法と北名古屋市歴史民俗資料館のこれまでの取り組み」
 - 12:45 昼食
- 午後
 - 13:35 見学方法の説明
 - 13:40 個人で展示室などを見学(1回目)
 - 14:15 見学後の心理・生理測定
 - 14:30 休憩
 - 14:40 グループで展示室などを見学(2回目)
 - 15:10 見学後の心理・生理測定
 - 15:25 市橋先生と一緒に、刺激を受けた作品、風景、音などを紹介し合う(3回目)
 - 15:45 見学後の心理・生理測定
 - 16:00 休憩
 - 16:10 演習「博物館資源を活かした、五感を刺激する回想法プログラムを考えよう」
 - 16:35 グループ発表、市橋先生講評
 - 16:50 ふりかえり
 - 17:00 終了、解散

定員30名

「博物館 de 回想法」

講師：市橋 芳則 (Yoshinori ICHIHASHI)
北名古屋市歴史民俗資料館長/専門分野：博物館学

